

3/16 大田原ブランド認定証交付式 ～新たに3件を認定～



本市の自然豊かな環境のもとで作られた特に優れた特産品を「大田原ブランド」として認定しています。今回で5回目となりました認定審査において「なんだパンダ」、「丸富ねぎ」、「東京石材の花崗岩みやつこうすたあ・^{きせき}燐石」の3件が新たに大田原ブランドに認定され、計27件になりました。

3/16 新入学児童へ黄色い帽子寄贈 ～子どもたちの交通安全を願って～



大田原交通安全協会と大田原地区運転管理者協議会から、市内の新入学児童に黄色い帽子が寄贈されました。この黄色い帽子は、新入学児童の交通安全に役立てて欲しいという願いが込められています。寄贈された帽子は、入学式で新入学児童に配付されました。

3/22 新入学児童へランドセルカバー寄贈 ～子どもたちの登下校の安全を願って～



大田原ロータリークラブ、大田原中央ロータリークラブ、黒羽ロータリークラブの3団体から、市内の新入学児童の入学を祝し、ランドセルカバーが寄贈されました。黄色いランドセルカバーには「ありがとう」の文字が入っており、新入学児童への交通安全の願いが込められています。

3/22 新入学児童へランチョンマット寄贈 ～子どもたちの成長を願って～



JAグループ栃木から、市内の新入学児童に「笑味ちゃんランチョンマット」が寄贈されました。このランチョンマットは、未来を担う子どもたちが県内の農畜産物をたくさん食べ、健やかに成長することを願い作成されたものです。ランチョンマットは児童が給食で使用します。

3/28 大田原市森林組合からの寄附 ～大切な森林と環境のために～



大田原市森林組合から森林の多面的機能と環境保全の森林整備のために1,000万円の寄附をいただきました。これらの寄附金は、林業振興や森林整備、また林道の維持補修に大切に活用してまいります。

3/28 書「糸桜」の寄贈 ～改組 新 第7回日展 特選受賞作品～



大田原市出身で書の振興に尽力され、全国でも活躍されている川上 鳴石 氏から改組 新 第7回日展で特選を受賞した書を寄贈いただきました。西行法師が詠んだとされる歌を書き上げた地元にゆかりのある作品です。5月18日まで市役所本庁舎1階で展示していますので、ぜひ、ご覧ください。



『地面に咲く桜』

投稿者：佐藤 友英（薄葉）

薄葉第三団地公園で散った桜の花
びらがまるで地面に咲いているよう
でした。



『みんなのひろば』投稿募集

●応募方法

Eメールに写真を添付し、本文に次の①～⑥を記入して情報政策課にお送りください。

①コーナー名

- ・我が家の『○○』（家族や自慢のレシピなどの紹介）
- ・いいとこ撮り（市内の風景・イベント写真の紹介）
- ・大田笑人（市内で活躍する個人・団体の紹介）

②写真のタイトル

③コメント（200文字程度）

④氏名とペンネーム（本名掲載を希望の場合は不要）

⑤住所（番地も記入。紙面には大字のみ掲載します。）

⑥電話番号

情報政策課 6階 TEL 0287(23)8700

✉ jouhou@city.ohatawara.tochigi.jp

●注意事項

- *原則として受付順に掲載しますが、応募多数の場合は過去に一度も掲載されていない方を優先します。
- *掲載回数の上限は1人につき月1回かつ同一年内3回までとし、2号連続しての掲載は行いません。
- *掲載された場合の謝礼はありません。

●掲載できない記事

- ・市の品位、公共性または公益性を損なうおそれがあるもの
 - ・政治的、宗教的または選挙活動に当たるもの
 - ・営利を目的とするもの
 - ・個人、団体を誹謗中傷するもの
- ※詳しくは、市ホームページをご覧ください。



市史編さんだより vol.31

民俗部会調査速報⑩

～木下ろし作業用のキヅリ(木橋)～

今回紹介する民具は、北滝の佐藤 和吉 氏（昭和4年生まれ）が八溝山地の南西麓で伐採した木材（主に松・桧・杉・桜など）を麓まで下ろすため、昭和40年頃まで使用していた運搬用のキヅリ（木橋）です。材質は桧の木で、長さ285cm、幅15cm、厚さ3cmほどの板を2本切り出し、その両端部を船の舳先状に加工し、ソリの滑走部としています。この2本の板に、幅4.5cm、厚さ1.5cmのほぞ穴を左右対称に各4個ずつ開け、幅が4.5cm、厚さ3cmの角材の両端部を加工してはめ込み、楔で固定して梯子のような基本の形が作られています。さらに2対の穴を開け、鉄製の針金3本を撚り合わせて2本の滑走部を締め上げて固定しています。前後は同じ形に整形され、両端部近くに4か所の穴を開け、端部に金具の付いたキヅリを引くためのロープをかけて縛る、針金製の環が付いています。このソリに、直径約15cmで長さが約3～3.6mの木材ならば10～15本積むことができます。木材は縄でソリに縛り付け銚を打って固定し、木道を滑らせるようにして里に下ろしました。木道にはバンギとよばれる伐採した枝を傾斜に合わせて敷き、廃油を塗ってキヅリを滑りやすくしました。

木材に関する作業は分業で、伐採を行うモトヤマと搬出を行うキオロシの作業があります。伐採は春と秋の2回行われました。昭和30年代までは伐採した後、現地で皮を剥き乾燥させるのが一般的でしたが、材木の需要が高まった昭和40年代になると生木のまま運搬されるようになりました。（民俗部会 上野 修一）



キヅリ（左：全体 右：先端部拡大）

文化振興課 TEL 0287(47)5031